東京登文会NEWS

東京都登録有形文化財建造物所有者の会

第１３号
令和5年10月01日発行

会員の建物訪問　荻窪を歩く　2023/6/4

ビストロOJIの前庭にて
後方右端がオーナー末光操さん前は平間美民さん

荻窪には会員の所有登文が「西郊ロッヂング」「古宇田家住宅」「ビストロOJI」と３件あります。それぞれがちょっと離れた場所にある為歩いて廻るにはそれなりの覚悟が必要です。最初は西郊ロッヂングをお訪ねしました。昭和６年築の本館「西郊旅館」（11部屋の和旅館）と昭和13年築の新館「西郊ロッヂング」（13部屋のアパート）に分かれます。旅館もアパートも現役営業中です。

平間美民さんご夫妻で運営されています。都内でも営業中の旅館としては１～２を争う歴史の古さです。通常の営業の他に広間などを使った撮影やレトロファンによる団体の見学会などでお

ヘッドライン

○会員建物訪問、荻窪を歩く・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１
○登文会フェア　富田林伝建地区めぐり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３
○会員建物訪問　千石を歩く・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
○新会員紹介　和朗フラット４号館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５
○全国登文会～大阪フォーラム、会員総会に参加して～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６
○会費振込のご案内・・・Ｐ７
○役員、会計報告、編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ８

忙しいようです。またレトロファンの体験宿泊などもあるようです。これからもご夫妻で古き建物を守り続けて頂きたいです。

平間さんの愛車はプリンス自動車製グロリアです。建物だけでなく車も５０年以上乗り続けていらっしゃいます。次は古宇田家住宅に伺いました。外からの見学になりました。モダンな洋館の様子が良く分かりました。最後にビストロOJIに伺いました。

　こちらは一軒家レストランとして約４０年営業しておられます。今は予約のみの営業ですが末光操さんがお一人で頑張っておられます。ご説明を伺い驚かされたのはお店やお庭の管理の行き届いていることです。庭には雑草一本在りません。芝は綺麗に刈られています。環境も御料理の味のうちとのお考えで管理されています。芝生に裸足で出して頂き写真を撮りました。お店が何時までも続きますことをお祈りいたします。

番外では有りますが街歩きの最後に荻窪駅前のレトロ喫茶店「邪宗門」に寄りました。建物の古さはもとより上品なご高齢の女性経営者が一人で切り盛りされている姿を見て一同感心させられました。

全国登文会フェスタ大阪
富田林伝県建地区街歩き

全国登文会フェスタの一環として主催である大阪登文会の案内で大阪府「富田林(とんだばやし)重要伝統的建造物群保存地区重伝建地区)街歩きイベント」に参加しました。

東京登文会からは、会員の田村公一さん、事務局の大和田および髙橋が参加しました。富田林市の重伝建地区である富田林寺内町(じないちょう)は、大阪中心部から約30分、近鉄長野線富田林駅より約400m南に位置します。東西約470m、南北約400mの範囲で室町地代から続く格子状の町割を残し、歴史を感じられる街歩きを楽しめます。寺内町のうち約200棟が江戸地代から昭和中期の建築です。このような近世の町割りや、当時の有力商人の町家や寺院が連なって残る景観が評価され、平成9年(1997)に富田林寺内町地区の一部が、平成30年(2018)には地区全域が、大阪府で唯一の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

「寺内町」とは寺院を中心に堀や土塁などで町を守った宗教な自治都市の事を言います。この富田林寺内町が成立したのは室町時代の永禄年間(1558～1561)に京都興正寺の証秀上人が、通称「荒芝地」を銭百貫目で購入し、近隣四ケ村で八人の有力者を集めて興正寺別院を建立、この八人衆の合議制のもとで興正寺別院を中心とした町づくりが行いました。町には戦乱を生き残るため知恵が随所に見られます。町は台地の上にあり周囲には土居(土塁)を造り、竹を植え、町筋の道と道はと半分ほどずらして交わる「あてまげ」と呼ばれ、城下町などでよくに見られるつくりになっています。また、江戸時代には、近くを流れる石川の水運、東高野街道・千早街道が交差する陸運にも恵まれて、商業の町として大いに発展し、江戸幕府の直轄地となりました。寛文8年（1668）の記録では、51職種、149の店が軒を並べて居ました。とくに、酒造業が盛んになりました。

室町時代には、周辺の農家の前栽には葡萄が栽培され、その葡萄で作った酒を寺内町の名産となっていました。(江戸時代「河内名所図会」より)もしかすると、織田信長が飲んでいたかもしれません。また、寺内町では、八人衆の一つ杉山家や興正寺別院では能や浄瑠璃が盛んに興行され、町人の間では俳諧がブームとなったようです。そんな寺内町は自由で新しい時代を拓く気風が満ち溢れていました。

「旧杉山家住宅」は、重要文化財で4層の大屋根が特徴です。代々造り酒屋を営み、南河内の肝煎り(肝入り)役を勤めていました。主屋の土間が最も古く、江戸時代享保19年(1734)に現在の建物になりました。
明治末期、堺市出身の与謝野晶子らと活躍した明星派歌人、石上露子（本名杉山タカ）は明治15年（1882)当家で生まれ、敷地内の蔵には、露子ゆかりの遺品を展示しています。

最後は、コース内の古民家カフェで休憩、食事の後、大阪公開堂での基調講演およびシンポジウムに出席のため中之島に移動しました。

文京区千石街歩き　　イベント実施：2022/12/03

進開屋（伊藤みき江さん）
文京区千石２－３０－６
開業１００年になるお蕎麦屋さんです。戦災も超えた歴史ある建物です。店内は昭和のお蕎麦屋さんそのままです。ご近所は大名屋敷の跡が多く最近では殆どマンションに変 わってしま

伊勢五（今井龍司さん）
文京区千石３－３８－９
160年の歴史を誇るお米屋さんです。お店の隣の蔵や広い敷地の中のお稲荷さんや池のあるお庭など見せて頂きました。大名屋敷街の時代から土地に愛されたお店であることが良く分かります。現在は通信販売も含め全国のブランド米を扱っています。我々も少量ずつお土産に買わせて頂きました。

新会員ご紹介

「和朗フラット４号館」
森　守さん
港区麻生台３－３－２３

港区の登文「和朗フラット四号館」をお訪ね致しました。
和朗フラット四号館は 六本木から徒歩１０分飯倉片町交差点近くに在りました。昭和１１年建築の洋館アパートメントで建創時は１号館から７号館まであったそうです。現存するのは３棟で森さんの管理されている建物は四号館です。１階は４部屋がアトリエ、物販、喫茶などおしゃれな空間のお店が並んでいます。２階は人気のアパートメントです。他に無いクラシックな空間を好むお客様が多いようです。外壁の白の塗装も綺麗に仕上げられていて古さを感じさせません。管理者の森さんの建物に対する愛情をお話の中でひしと感じました。写真集「和朗フラット四号館」を発行されていることからもそれが分かります。「木造の建物は災害によって突然姿を失う可能性があります。そこで、いろいろな方に見て頂けるような記録資料に整えました。」とのことです。麻布台も近くで大規模開発が盛んに行われていました。ビルの谷間の「和朗フラット四号館」ですが今の儘の姿が何時までも残ることを期待いたします。森さんは出版関係のお仕事をされており皆様にも記録としてご自分の建物を写真等で残すことを薦めておられました。ご相談されては如何でしょうか。　（文/写真・辺俊司 2023/09/17取材）

８番目のお部屋は喫茶店

写真集　「和朗フラット４号館」

全国登文会　大阪フォーラム、会員総会に参加して

岩本福之助
(自費で公会堂を建設、寄贈)

全国登文会大阪フォーラム、会員総会に参加して 全国登文会の大阪フォーラム・会員総会は令和５年６月２３・２４日の２日に亘り全国から８登文会が参加し大阪登文会のご協力で実施されました。東京登文会からは事務局の渡辺、高橋さん、会計理事大和田さん他協賛会員田村さんの４名が参加致しました。中之島、北浜、船場地区には重厚な大規模文化財が多く存在し見学会は立派な文化財建物を堪能致しました。大阪登文会の皆様には大変お世話になりました。コロナで中断していたリアルの全国会フォーラムは盛会に行われました。東京でも全国会を開催することになると思いますがどこで開催するか悩ましいところです。皆様のお知恵をお借りしたいと思います。

大阪市中央公会堂（６月２３日　基調講演、シンポジウムを行いました）

大阪府立中之島図書館（住友吉右衛門が寄付）

麺業会館（日本麺業倶楽部）　６月２４日こちらで会員総会、理事会を行いました。

懇親会

融合写真の背後で大阪中央公会堂がライトアップされています。

国登録有形文化財の登録数について

賛助会員(一級建築士)　田村紘一さん

2023年9月現在日本全国には、国登録有形文化財（建造物）が13,774件ありその数は年々増え続けており喜ばしい事と思います。
都道府県別で見ると。①大阪府：836件、②兵庫県：753件、③京都府：626件、④長野県：612件、⑤愛知県：553件、⑥滋賀県：500件、⑦香川県・東京都：448件、⑨奈良県：323件、⑩神奈川県314件、・・・・㊺岩手県：102件、㊻青森県：101件、㊼沖縄県：83件となっている。人口の数、建造物の数、歴史の重要度などを考えると、香川県と東京都が同数と言うのも不思議だし、滋賀県は多く、神奈川県は少なく感じる。
東京都内で見ると。①文京区：49件、②台東区：32件、③港区：29件、④大田区：25件と続くが、23区内で1件もない区が、北区・荒川区・板橋区・葛飾区・江戸川区と5区もある。中央区は5件と少なく感じるが都心で建物の建替えが進んでいる為だろうか。
この様に各地での登録件数の違いはなぜ起こるのか私が思うには。
①地方自治体による「登録有形文化財」に対する取り組みの違いが大きいと思う。大阪府・兵庫県などは東京都の1.6倍以上の登録があるが自治体が音頭を取り支援も手厚いようであり、所有者同士の交流も盛んで功を奏しているようだ。
茨城県桜川市の真壁地区には102件の登録があり観光地としてにぎわっているが、自治体が各所有者に積極的に声掛けをして登録のお手伝いもしているようである。
東京都の「或る区」の場合は、「個人の建物に『登録にふさわしい』など優劣を付ける事は出来ない」との理由で積極的には動けないようで、私が知る限りでは東京23区で自治体が積極的に動いている区は有りません。
②そこで登場するのが東京都では「＊＊＊たてもの応援団」などの“建物好きの有志の団体”で、自分たちが『登録にふさわしい』と思う建物の所有者に「国登録有形文化財制度」のご説明をし、場合によっては登録のお手伝いもしています。
③しかしここで問題になっているのが、“自治体”が申請する場合は所有者の負担は無い場合が多いと思いますが。“有志の団体”ではそれなりの報酬を頂かないわけにはいきませんが、かなりの高額で仕事をしている団体もあるようです。
④所有者の方にお話しを伺うと「『県（又は市）指定の＊＊家』と比べると、我が家が『国登録』の家とはおこがましい」。「自分から『文化財にして欲しい』などと言う事が出来るのか」。などの言葉で国登録有形文化財制度が人々にほとんど認知されていない現状がある事です。
⑤歴史的建造物の所有者の方が「建物に愛着を持ち、誇りを持って維持して頂いている」のに「国登録有形文化財制度」を知らず一人お悩みになっているのは望ましい事ではなく、同じ仲間がいる事を知って頂き「個人はもちろん地域の大切な文化財」でもある建物を永く大切にして頂きたいと思うばかりです。

「国登録有形文化財制度」を広く知って頂くには、マスコミの活用など考えられますが、自治体からの働きかけが一番と思います。信頼性・地域との関りなどこれに勝る団体は無いと思いますが、昨今の人手不足、個人情報の観点、建物に優劣を付ける事は出来るのか、などから難しい状況が続いています。
私も近代建築の取材の為「国登録」の住宅には、ポストに「取材のお願い」を投函しますが2割ぐらいは返事が無く、「国登録以外の“これはと思う住宅”」にも投函しますが半分ぐらいは返事がありませんが、中には「よくぞこの家を見つけてくれた」と喜ばれる方も多く「愛着と誇りを持っていらっしゃる」姿に接すると嬉しいばかりです。

2023年9月　　田村公一

役　　員

会長	金澤正剛	金澤家住宅
副会長	伊藤信夫	神田丸石ビル
	酒井智章	池上實相寺
	平間美民	西郊ロッヂング
理事	高野亨士	魚河岸料理よし梅
	宇津木まや	宇津木家住宅
	飯箸雄一	鳳明館
	堀口康之	堀口家住宅、店舗
	鶴見克己	鶴見瓦店
	小島完	祥友建設
事務局	渡辺俊司(局長)	西洋館倶楽部
	高橋弘樹	旧高橋診療所
会計	大和田真一	難波商店
監事	宮代清子	浅草茶寮一松
	棚沢由貴子	棚沢書店
顧問	伊藤滋	東京大学名誉教授
	入江建久	新潟医療福祉大学名誉教授
	後藤治	工学院大学教授
	日塔和彦	東京芸術大学客員教授
	藤井恵介	東京大学教授
	三船康道	ジェネスプランニング

（敬称略）

会計報告

令和４年度会計（2022/04/01～）

2022/07/08	会費収入		5,000	
2022/07/12	会費収入		5,000	
2022/07/12	会報製作発送費	25,000		
2022/08/03	会費収入		10,000	
2022/08/29	鳳明館		10,000	
2022/10/02	東京ﾀﾜｰコンサート協賛金	20,000		
2022/10/02	〃　会員案内製作発送	7,000		
2022/11/26	全国登文会会報・見学会案内送付	5,000		
2022/12/12	入会金・会費収入		10,000	
2023/04/01	利子		1	
2023/04/04	全国登文会年会費	14,000		
2023/04/04	〃　振込料	100		
2023/06/06	全国会荻窪街歩きハガキ発送	5184		
2023/06/06	効果手数料	110		
2023/06/14	街歩き経費		9,000	

2023/09/29現在　会計責任者:大和田真一

編集後記

東京登文会NEWS12号から1年4か月後に13号をお届け致します。今回はコロナ明けもあり街歩き2回、全国登文会の大阪フォーラム、新会員紹介、田村さんからの御寄稿など有りましたので充実した記事になっているかと思います。プリントの方も高橋さんのお陰でネットプリント業者を使うようになり写真の鮮明さ、綴じ込みの正確さなど向上しました。会員さんのニュースが有りましたらお寄せください。充実した会報を目指してまいります。

事務局一同

発行：東京都登録有形文化財建造物所有者の会 事務局

発行・編集担当：髙橋弘樹
住所：〒143-0023東京都大田区山王３－３０－５
☎/FAX：03(6316)0650
Keitai080(5440)2957